

森田高総務大臣政務官が富山県立ふるさと支援学校を視察



訪問教育の視察



小学部の視察



中学部の視察
(大型IWBを使った授業)

平成24年5月25日(金)、森田高総務大臣政務官が総務省のフューチャースクール推進事業の実証校となっている富山県立ふるさと支援学校を視察しました。

同校では、平成23年度から、児童生徒の個別の障害に対応し、学習能力と社会に関わる力を向上させるための学習環境の構築を行っており、学校内に無線LAN環境を整備するとともに、障害のある児童生徒の授業にタブレットPC(タブレット型パソコン)やIWB(インタラクティブ・ホワイト・ボード)などのICT機器を活用する様々な実証研究に取り組んでいます。

今回の視察は、学校側から実証研究の状況について説明を受けたのち、訪問教育(隣接する病院に入院している児童生徒を先生が訪問)、小学部、中学部の順に授業の視察を行い、その後、富山県教育委員会や学校の先生方と意見を交換しました。

訪問教育では、車いすに乗った児童が入力支援器具(教師考案:ピンポン玉にアルミテープを巻いたもの)を握ってタブレットPCの画面をタッチすることにより絵本読みを楽しむ様子を、また、小学部では、タブレットPCやIWBを使って“なぞなぞ”を出題してその答えを発表し合う様子を視察しました。

中学部では、体育館に設置されている大型IWBとタブレットPCを使って、自分のスポーツテスト記録をその場で入力し、富山県の平均値と比べたりする授業が行われました。

政務官と学校関係者との意見交換会では、学校関係者から、取組への意欲や課題が出され、それに対し、政務官からは、国づくり、人づくりにおける本取組の意義、関係者のご尽力への感謝と激励、国としての拡充・支援の方針などが述べられ、充実した懇談となりました。

なお、今回の視察には、安間敏雄総務省情報通信利用促進課長と齊藤一雅北陸総合通信局長が同行しました。

フューチャースクール推進事業は、全国20校の小中学校、特別支援学校で実証研究が行われていますが、特別支援学校は全国でも2校のみであり、ふるさと支援学校での今後の取組が期待されます。



森田高総務大臣政務官(中央)